

日本共産党船橋議員団

三にゅす

日本共産党国会議員団千葉事務所 ☎043-302-2005
 県会議員 丸山 慎一 ☎047-424-6347
 <市議団控室☎436-3030 FAX420-7201>
 市 会 議 員

岩井 友子 ☎438-8647 事務所☎429-2160	関根 和子 ☎447-0557 事務所☎440-7950
金沢 和子 ☎422-5278	中 沢 学 ☎493-8140
坂井 洋介 ☎404-2039	松崎 さち ☎090-6156-8592
佐藤 重雄 ☎432-9872	渡辺 ゆう子 ☎462-7273

3月議会で市教育委員会から市立船橋高校普通科の通学区域を市外に拡大する方針が示されました。日本共産党は本会議でこの問題を取り上げ、拡大の中止を求めました。

現在、市立普通科の通学区域は船橋市内に限定されていますが、市教委は2017年度から「市内県立高校と同様の通学区域」(県内19市他)に拡大しようとしています。「市内中学生と市外中学生が切磋琢磨する」というのが理由ですが、この論拠はどの角度から見ても成り立つものではありません。

まず第一に、市船は市民の税金で設置・運営されている「市立高校」です。市税で成り立っている市立高

校は「市民のための高校」でなければなりません。

第二に、現状でも市外からの出願を認める特例条項があり、普通科の市外中学出身者の割合はすでに22%にのぼっています。商業科は77%、体育科は81%が市外中学出身者で占められています。

第三に、市立普通科の今年の前期選抜は1・78倍の倍率であり、これ以上の倍率引き上げは全く必要ありません。

第四に、市内の中学生の希望を踏みにじるものだという事です。市教委が市内全27中学校の2年生の中から978名にとったアンケートでは、21・6%が「市立普通科に入学

日本共産党船橋市議団主催

無料 法律相談

4月20日(水)
5月19日(木)

弁護士が相談を受けます
労働相談も受けています

会場：中央公民館
時間：午後1時～4時
要予約 ☎436-3030

いいの!?

市立船橋高校 普通科も市外受け入れ

「すでに抜け穴となっている『市外からの出願を認める特例』を廃止し、市内の中学生にこそ門戸を拡げるべきだ」、「巨額の市税を投入して設置・運営している市立学校の理念とは根本的に相容れない」と指摘し、通学区域拡大の中止を求めました。

市教委は、「今以上に市内中学生や保護者に学びたい、学ばせたい学校にしたい」などと答弁し、強行する姿勢を示しました。

「したい」と答えています。希望者全員が受験すれば、市内中学生だけで4・5倍の倍率になります。

深刻な「保育園不足」

解決するには、認可保育園の増設と「保育士の待遇改善」

「保育園落ちた、日本死ね！」というメッセージが、保育園不足が社会問題として認知されるきっかけをつくりました。

船橋市も例外ではありません。議会でも再三取り上げてきましたが、ひどかったのは昨年

船橋市では少し改善したが、国は保育士にしわ寄せで定員増という姑息さ！

「保育園落ちたの私だ！」というプラカードを掲げた、子育て世代が国会前を埋めました。

それに押されて、保育所の定員増を図るとして政府が取ったのが、「規制緩和」です。小規模保育所（6名から19名のこどもを

船橋市議会も無資格の補助者を入れる「緩和条例」を可決してしまいました。

最善の環境で保育し、待機児なくしてこそ「解決！」

新年度、船橋市は72人の正規保育士を採用しました。臨時保育士の待遇も少し改善しました。

しかし、正規保育士には退職の人もいて、3月10日現在で、必要な人員には25人の保育士が不足し、そのために49人の「空き

待機児」を生み出しています。これを解決するには、保育士の待遇を大幅に改善する以外に

道はありません。家庭保育でも、施設での保育でも、「保育される子ども」に

とっての「最善を追求する」のが、政治の役割です。それを実現するために力を注ぎます。

主催：九条の会・ちばけん / 九条の会・千葉地方議員ネットワーク

金子勝さんに聞く戦争とお金の話

4月23日(土)
13:30~16:00

船橋市民文化ホール

JR 船橋駅から徒歩 約7分
京成船橋駅から徒歩 約5分

入場料:500円

私たちが止める戦争への道

■基調講演 **金子勝**さん(経済学者・慶応義塾大学教授)

■パネルディスカッション

SEALDs(予定)

安保関連法に反対するママの会@ちば

金子勝さん

チケットお問合せ 九条の会・ちばけん 043-236-0660(野口) / 九条の会・千葉地方議員ネット 047-444-5262(津久井)